

受勲謝辞

今から 123 年前、明治 33 (1900) 年に中国で起こった義和団の乱の際、日本を加えた欧米列強が鎮圧にあたりましたが (北清事変)、その際フランス傷病兵 120 余名が広島に搬送され、広島城の西にあった陸軍病院で治療されました。その結果、大半が治癒して帰国しましたが、そのうち 7 人は治療の甲斐もなく広島で命を落としました。彼らは比治山の陸軍墓地の一角、広島湾を見下ろす絶景の地に手厚く葬られ、以来 123 年にわたり彼らの墓は、主として比治山陸軍墓地奉讃会の人々の手によって、きれいに維持管理されてきています。

一方、広島日仏協会は、今から 74 年前、戦後 4 年経った 1949 (昭和 24) 年に設立されました。広島にある二国間交流協会の中で一番古い協会です。

創設者の 1 人、当時広島大学文学部フランス文学教室主任の中村義男氏は、比治山のフランス人墓地は、広島とフランスの友好・親善の証でありシンボルである、常々おっしゃっていました。中村先生のお言葉に従い、私も墓地に埋葬されている 7 人の兵士の子孫探しや、子孫の広島墓参に協力してきました。

しかし、先ほどの在日フランス大使館付き武官ロベール・シャルドン海軍大佐のお言葉は過分であり、それらは原野個人に対してではなく、広島日仏協会に向けられたものと思っています。見つかった子孫を広島に招待し、記念式典を行ったのも広島日仏協会です。その意味でも、この勲章は私一人に対してではなく、広島日仏協会に与えられたものと思っています。

今回の叙勲を励みに、今後とも広島とフランスの友好・親善促進のため、広島日仏協会の活動に微力を尽くしてまいりたいと思っています。

本日は、シャルドン大佐におかれましては、ご多忙の中、東京からわざわざ叙勲のためにご来広いただきありがとうございますございました。

また、ジュール・イルマン総領事様も京都からわざわざお越しいただきありがとうございますございました。

また、このように多くの皆様方にご参列いただき、厚く感謝申し上げます。

本日はまことにありがとうございますございました。

2023 年 7 月 3 日

広島日仏協会副会長
原野 昇